



大規模スポーツ施設の在り方に関する

提 言 書

平成30年2月6日

大規模スポーツ施設の在り方検討委員会

はじめに

大規模スポーツ施設の在り方検討委員会（以下「検討委員会」という。）は、総合体育館やドーム球場など本県における大規模スポーツ施設の在り方について検討を行うため、平成29年5月に鹿児島県により設置されました。

検討委員会は、県内外の有識者14名で構成され、これまで、まず、新たな総合体育館の整備の「必要性」と求められる「機能」について、事例調査をはさみ、4回にわたり検討を重ねてきました。

また、ドーム球場については、全国の施設の設置状況等を調査し、議論を行うとともに、サッカースタジアムについては、鹿児島市のサッカー一等スタジアム整備検討協議会の検討状況を調査してまいりました。

このたび、新たな総合体育館の整備の「必要性」と求められる「機能」について、委員各位の協力によって、検討委員会としての合意が得られましたので、ここに提言として取りまとめました。

また、ドーム球場に関する検討委員会としての考え方についても、提言として盛り込むこととしました。

今後、本提言の考え方を尊重され、また、今後も様々な意見を参考にしつつ、新たな総合体育館については、県民をはじめ、多くの人々に親しまれる、素晴らしい施設が早期に整備されることを期待します。

大規模スポーツ施設の在り方検討委員会
委員長 川西 正志
(鹿屋体育大学教授)

目 次

| | | |
|-----|----------------------------|----|
| I | 検討の経緯 | 1 |
| II | 総合体育館について | |
| 1 | 検討した内容 | 2 |
| 2 | 提言 | 2 |
| | 提言1 総合体育館の整備の「必要性」について | 2 |
| | 提言2 新たな総合体育館に求められる「機能」について | 4 |
| 3 | 参考意見 | 7 |
| III | ドーム球場について | |
| 1 | 検討した内容 | 8 |
| 2 | 提言 | 8 |
| ○ | 委員名簿 | 10 |
| ○ | 設置要綱 | 11 |
| | (資料編) | 12 |

I 検討の経緯

検討委員会においては、提言に至るまで、総合体育館に関する事例調査をはさみ、4回にわたり検討を行ってまいりました。

<検討委員会の開催>

【第1回】平成29年6月12日

- 大規模スポーツ施設の在り方検討委員会設置趣旨について
- 現県体育館の現状と課題について
- 今後の検討項目と検討スケジュールについて

【第2回】平成29年9月7日

- 新たな総合体育館の必要性について
- 事例調査の実施について

【第3回】平成29年11月21日

- 新たな総合体育館の機能について
- サッカースタジアム、ドーム球場について（報告）

【第4回】平成30年1月25日

- 新たな総合体育館の提言書(案)について
- サッカースタジアムについて
- ドーム球場について

<事例調査の実施>

平成29年11月6日～7日

- 東京体育館
- 有明アリーナ(整備中)

Ⅱ 総合体育館について

1 検討した内容

第1回検討委員会において、知事は、あいさつの中で、「新たな総合体育館を早期に整備する必要性を強く認識しているところである。ただ、整備するためには、何よりも県民の理解を得る必要があることから、その必要性と機能について、望ましい施設の姿という観点から、検討をお願いしたい。」と本検討委員会での検討に当たっての基本的な考えを述べられました。

これを受け、検討委員会における検討内容について、新たな総合体育館を優先的に検討することとし、その整備の「必要性」と求められる「機能」の2つについて検討を行いました。

いずれも、整備するに当たって整理されておくべき、重要な視点であり、委員会の意見として、以下の2のとおり取りまとめ、提言いたします。

2 提言

提言1：総合体育館の整備の「必要性」について

新たな総合体育館については、県において早期に整備することが必要である。

1 提言の趣旨

検討委員会では、現在の県総合体育センター体育館が老朽化していること、全国・国際レベルの競技大会の開催等には狭隘である現状等を踏まえると、本県のスポーツ振興を図る上で、できるだけ早期に新たな総合体育館を整備する必要があるとの共通認識で一致しました。

2 提言に至るまでの検討内容

検討委員会においては、まず、鹿児島県総合体育センター体育館の現状と課題を整理した上で、新たな総合体育館の整備の必要性について検討しました。

(1) 鹿児島県総合体育センター体育館の現状と課題

① 現状

鹿児島県総合体育センター体育館（以下「県体育館」という。）は、昭和35年に竣工し、その後、昭和42年に研修室が、昭和47年に補助体育館が完成し、現在に至る。

本館アリーナの面積は1,320㎡で、バスケットボールコートが2面入る広さがあり、また、観覧席（2階、3階）は1,739席となっている。

補助体育館の面積は486㎡余りで、バドミントンコート1面と体操ピットが入る広さである。

本館アリーナの年間の利用状況は、平成28年度の実績で利用者数が約12万3千人、その内容は、県民のスポーツ活動の場として利用されているほか、県中学校体育連盟主催の大会や県民体育大会、県内各競技団体の競技大会など県レベルの競技大会、Bリーグ公式戦、スポーツ以外では鹿児島大学の入学・卒業式、県戦没者追悼式の式典に利用されている。

② 課題

県体育館は、築後57年以上が経過して施設の老朽化が進み、耐震性に支障はないものの、補修等を行いながら機能を維持している状況である。

また、全県規模の競技大会の会場として一番の受け皿となっている。一方で、バレーボールやバスケットボールに使用できるコート数や観客席数等収容人数が少ないことや、競技によっては競技場の規格が大会規定に適合しておらず、現在、大会等の開催施設として狭隘となっているといえる。このため、県大会レベルの大会も他の施設と併催しているほか、昨年度は、全国レベル、国際レベルの大会の開催実績がないなどの現状にある。

そのほか、倉庫やトイレなど、付帯施設についても、利便性の向上を求める意見がある。

(2) 新たな総合体育館の整備の必要性

上記の県体育館の現状や課題を踏まえて、本県における、新たな総合体育館の整備の必要性について意見交換を行いました。

その結果、現在の県体育館の老朽化や全国・国際レベルの競技大会などの開催等には狭隘であること等の課題を踏まえると、本県のスポーツ振興を図る上で、できるだけ早期に新たな総合体育館を整備する必要があるとの共通認識で一致しました。

提言2：新たな総合体育館に求められる「機能」について

新たな総合体育館には、本県のスポーツ振興の拠点としての機能に加え、多目的利用による交流拠点としての機能があることが望ましい。

1 提言の趣旨

新たな総合体育館は、県民の方々による様々なスポーツ競技の開催や一流スポーツの観戦に利用されるとともに、コンサート・イベントなど多目的に利用されることにも配慮されたものとなることが望まれます。つまり、「本県のスポーツ振興の拠点としての機能」とスポーツにとどまらない「多目的利用による交流拠点としての機能」の2つの大きな機能を持つ、いわゆるアリーナ的施設の施設が望ましいと考えます。

2 提言に至るまでの検討内容

検討委員会では、新たな総合体育館を整備することが必要であるとの共通認識を得た後、引き続き、県の総合体育館として今日的にどのような機能を持った施設が望ましいかという観点から、検討を重ねました。これは、施設整備の基本理念に通ずるものと考えます。

その結果、新たな総合体育館には、「本県のスポーツ振興の拠点としての機能」、スポーツにとどまらない「多目的利用による交流拠点としての機能」の2つの大きな機能を軸に、以下のとおり、新たな総合体育館に望ましい機能を取りまとめました。

これらを総合すると、新たな総合体育館は、県民の方々による様々な競技の開催や一流のスポーツ競技の開催に利用されるとともに、コンサート・イベントなど多目的にも利用され、これらを観戦・鑑賞したり、参加することにも配慮された、いわゆるアリーナ的施設の建設が望ましいと考えます。

(1) 本県のスポーツ振興の拠点としての機能

新たな総合体育館には、県民全体のスポーツ振興の拠点としての機能が十分に発揮されることが必要です。

スポーツには、国のスポーツ基本計画（平成29年3月24日文科科学省策定）等にも謳われているように、以下の「する」、「みる」、「ささえる」の3つの視点があり、新たな総合体育館には、現在の県体育館が抱える課題をクリアした上で、これらの視点に配慮した機能が望まれます。

◆ スポーツを「する」視点

- 年齢、障害の有無等に関係なく、県民誰もがスポーツに親しむ施設としての機能（ユニバーサルデザイン、バリアフリーにも十分に配慮）
- 多様なスポーツ競技の開催が可能な施設としての機能
- 各種の全県的競技大会が会場を分散せず開催でき、大会運営の効率化が図られる機能

◆ スポーツを「みる」視点

- 国際・全国レベルの競技大会やプロスポーツの開催ができる機能
- 上記開催を通じ、一流のアスリートの競技を間近に観戦できる機能

◆ スポーツを「ささえる」視点

- 多くの県民がスポーツに興味を持ち、理解を深め、スポーツに関わる機会につながるようなスポーツ文化を発信する拠点としての機能
- 教育機関等と連携したスポーツを支える人材育成の機能

(2) 多目的利用による交流拠点としての機能

新たな総合体育館は、(1)の県民全体のスポーツ振興の拠点として、「する」視点、「みる」視点、「ささえる」視点から、県民の方々にスポーツに親しむ機会を提供することで、多くの人が集まる場となることが予想されます。

他の都道府県の既存の総合体育館の事例を見ると、国際・全国大会規模や全県的大会に利用されているほか、コンサートなどスポーツ以外のイベントなどにも利用されている状況が見られます。

また、他の都道府県の現在計画中や整備中の事例を見ると、ほとんどの施設で、その基本理念や役割などにおいて、コンサートやイベントなど、多目的に利用できる機能を位置づけています。

現在、国の未来投資戦略2017（平成29年6月9日閣議決定）においては、スポーツを核とする地域活性化を図るため、スタジアム・アリーナをスポーツのほか、音楽イベントなど賑わいやコミュニティ創出の拠点とするという考え方が示されているところです。

このようなことから、本県の新たな総合体育館は、本県のスポーツ振興の拠点としての機能に加え、スポーツにとどまらない、コンサートやイベントなどの開催を通じて、スポーツをする人もしない人も、また、様々な年代の人々が集まり、交流することができる場を提供する機能があることが望ましいと考えます。

実際の整備や運用に当たっては、スポーツ利用の機能と多目的利用の機能との兼ね合いについてどうバランスをとるか、また、固定観客席数など、どの程度の規模が適当なのかなど、今後県において整備に関する基本構想を策定する段階で検討を要するものと考えますが、新たな総合体育館に求められる機能としてこの2つの機能は必要であると考えます。

このことにより、多くの人々が集まり交流人口が増え、賑わいの創出や周辺の地域資源との連携による経済波及効果など地域活性化とともに、施設の収益性にも寄与するものと考えます。

3 参考意見

検討委員会は、新たな総合体育館の整備の「必要性」と求められる「機能」について検討してきましたが、その過程において、提言でお示した2つの機能が十分発揮されるよう、委員から貴重な意見が出されました。

これらは、検討委員会としての提言の範疇に入るものではありませんが、今後、整備の具体を検討する段階で参考になると考えますので、要約して次に示します。

(1) 鹿児島県のオリジナリティー

整備に当たっては、暖かみのある楽しい魅力的な空間、全ての人に優しく使い勝手がよいデザインなど、他県に先駆け、誇れるような鹿児島県のオリジナリティーを感じられる施設となるよう配慮することが望まれます。

(2) 経済性に配慮した施設

今後、整備の具体を検討するに当たっては、長期的なスパンで、建設コストやメンテナンスコスト、収益性と公益性のバランスなど経済性に配慮した視点が望まれます。

本県の今後の人口動態や財政状況等を踏まえた合理的な施設を検討することも望まれます。

(3) 既存施設等との役割分担

新たな総合体育館は、県民全体のための施設として、その機能が発揮できるよう、整備・運用に当たっては既存の施設等との役割分担や連携を図っていくことが望まれます。

(4) アクセス環境や周辺の街との連携

施設の利用に伴い、交流や賑わいが周辺に波及するような、アクセス環境や周辺の街との連携に配慮することが望まれます。

Ⅲ ドーム球場について

1 検討した内容

第3回検討委員会において全国の公設のドーム球場の状況、プロ野球公式戦が開催されるドーム球場の状況などについて調査し、第4回検討委員会においてドーム球場に関する検討の進め方について検討を行い、委員会としての考え方を取りまとめました。

2 提言

ドーム球場については、新たな総合体育館の整備後に、その利用状況等も踏まえて検討することが望ましい。

1 提言の趣旨

ドーム球場については、野球のほか、他のスポーツやイベント、コンサートなど多目的に利用でき、本県の観光や教育などの振興に資する施設になり得ると考えます。

このような、ドーム球場の持つ多目的な機能は、今回、提言にとりまとめた、新たな総合体育館に求められる機能と共通するところがあります。

また、その整備は、総合体育館と同じく大規模なプロジェクトとなります。

こうしたことから、ドーム球場については、新たな総合体育館の整備後に、その利用状況等も踏まえて検討することが望ましいと考えます。

2 提言に至るまでの検討内容

検討委員会においては、まず、全国の公設のドーム球場の設置状況等やプロ野球公式戦が開催されるドーム球場、県立鴨池野球場の現状等を整理した上で、ドーム球場の検討の進め方について検討しました。

(1) 全国の公設ドーム球場の状況等

全国のドーム球場においては、野球のみならず、他のスポーツやコンサート、イベントなど多目的に利用されている。そのうち、プロ野球公式戦が開催されている施設は、公設では札幌ドームのみであり、他は民設によるプロ野球球団の本拠地球場である。

これらの球場は、いずれも大規模なプロジェクトとなっている。

(例：札幌ドーム；観客収容人数約42,000人，建設費約422億円)

一方、本県の野球場である県立鴨池野球場は、全天候型ではないが、観客席21,000席で、プロ野球公式戦が年間数試合開催されている状況である。現在、かごしま国体開催に向け、グラウンドやスコアボード等の改修が行われている。

(2) ドーム球場の検討の進め方

上記の全国の公設ドーム球場の状況等を踏まえて、ドーム球場について意見が出されました。要約して次に示します。

- 総合体育館に関する提言においては、イベントやコンサートなど多目的に利用できる機能について盛り込んだ。

これらは、ドーム球場が有する機能と共通するところがある。共通する機能があると思われるドーム球場の検討を行うには、新たな総合体育館の整備後、その利用状況等を踏まえた方がよいのではないか。

- 県の財政も考えないといけない。総合体育館の整備は必要であると提言するが、これは、県にとっては大きな財政支出を伴うビッグプロジェクトとなる。同じくビッグプロジェクトとなるドーム球場については、総合体育館の整備後に行った方が適切な検討ができるのではないか。

- ドーム球場があるに越したことはないが、運営面も考えると、共通の多目的利用ができる総合体育館の整備後に検討した方がよりよい検討ができるのではないか。

これらの意見を受けて、当委員会としてはドーム球場については、新たな総合体育館の整備後に、その利用状況等も踏まえて検討することが望ましいという結論となりました。

大規模スポーツ施設の在り方検討委員会委員

| 氏 名 | 職 名 |
|----------------------|-----------------------|
| いのうえ ゆみこ 井之上 由美子 | ・(公社)鹿児島県建築士会女性部会会長 |
| かわにし まさし ◎川 西 正 志 | ・鹿屋体育大学 教授 |
| きかた じゆんね 木 方 十 根 | ・鹿児島大学学術研究院理工学域工学系 教授 |
| くにもと まさき 國 本 正 樹 | ・鹿児島ドリームウェーブ球団代表 |
| こぎ けいすけ 古 木 圭 介 | ・鹿児島県観光プロデューサー |
| ささがわ みちこ 笹 川 理 子 | ・弁護士 |
| たかじょう ふじお 高 城 藤 雄 | ・県障害者スポーツ協会会長 |
| た き くにあき 高 城 国 昭 | ・(公財)鹿児島県体育協会専務理事 |
| たまがわ めぐみ 玉 川 恵 | ・公認会計士 |
| つまがり さだとし 津 曲 貞 利 | ・鹿児島経済同友会代表幹事 |
| なかむら こうよう 中 村 航 洋 | ・日本政策投資銀行南九州支店長 |
| の だ としやす 野 田 順 康 | ・西南学院大学法学部国際関係法学科教授 |
| ふるかわ ちゅうじ 古 川 仲 二 | ・県教育委員会教育長 |
| ま の よしゆき 間 野 義 之 | ・早稲田大学スポーツ科学学術院教授 |

◎は委員長

敬称略, 五十音順

大規模スポーツ施設の在り方検討委員会設置要綱

(名称)

第1条 この委員会は、大規模スポーツ施設の在り方検討委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 委員会は、総合体育館やドーム球場など、大規模スポーツ施設の在り方について検討を行うことを目的とする。

(委員)

第3条 委員会は、知事が委嘱した委員で構成する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選で選出する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

3 委員長が不在のときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となり、議事を整理する。

3 委員長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(会議の公開)

第6条 会議は、公開とする。ただし、委員会で協議の上、非公開とすることができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、鹿児島県企画部企画課スポーツ施設対策室に置く。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が別に定める。


附 則

この要綱は、平成29年5月19日から施行する。

資 料 編

県総合体育センター体育館(本館)について

体育振興を通じて県民の体格の向上、青少年の健全な育成を期するための場として、昭和35年10月竣工

| | | | | |
|-------|--|---|---|-----------------------|
| 施設概要 | ○競技スペース部分 1,320㎡ 〔バスケットボール2面 バレーボール2面,卓球24台 etc ○観覧席 1,739席 ○最大収容人員 4,400人 | 利用状況 (平成28年度) ①年間利用者数 123,213人 ②年間開館日数 359日 ③年間稼働日数 324日 ④稼働率(③/②) 90% |  | |
| | (平成28年度) | | | |
| 利用形態 | ①国際・全国規模の大会 | 0日 | — | (実績なし) |
| | ②全県規模の大会 | 74日 | 23% | 各種競技団体等が主催する県大会等 |
| | ③スポーツ興行(※入場料を徴収し開催) | 11日 | 3% | Bリーグ レブナイズ公式戦 |
| | ④その他(上記①, ②, ③以外) | 236日 | 73% | 一般利用, 各種競技教室等 |
| | ⑤スポーツ以外 | 3日 | 1% | 鹿児島大学入学式・卒業式, 県戦没者追悼式 |
| 利用の特徴 | ①全県規模のスポーツ大会の会場として、一番の受け皿となっている。 | | | |
| | ②コート数や観客席が少なく、大会によっては他会場も併用して開催。(国際・全国規模の大会の会場としては狭隘。) | | | |
| | ③スポーツでの利用、特に県内のアマチュアスポーツでの利用が大半。スポーツ以外での利用は限定的。 | | | |

鹿児島県総合体育センター体育館の概要

現在の体育館は、体育振興を通じて県民の体格の向上、青少年の健全な育成を期するための場として、昭和35年10月に竣工した。

その後、研修室が東京オリンピック記念スポーツ施設建設資金から500万円の補助を受け総工費1,019万円で昭和42年7月に完成し、さらに第27回国民体育大会(太陽国体)の体操会場としての補助体育館が工費1,266万円で昭和47年10月に完成した。

(1) 施設概要(全体)

| | |
|-------|--|
| 所在地 | 鹿児島市下荒田四丁目47番1号 |
| 敷地面積 | 9,931.72㎡ |
| 建築面積 | 3,943.18㎡ |
| 延床面積 | 6,517.13㎡ |
| 構造・竣工 | ○本館 鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階地下1階建 昭和35年10月竣工 ○研修室 鉄筋コンクリート造2階建 昭和42年7月竣工 ○補助体育館 鉄骨造平屋建 昭和47年10月竣工 |
| 総工費 | 155,000千円 |
| 駐車場 | 101台 |
| 開館時間 | 8:30~21:00 |
| 休館日 | 毎週火曜日(指定管理者において火曜日も開場), 12/29~1/3 |

(2) 施設概要 (個別)

○本館 5,677.42㎡

| 階 | 施設名 | 面積 | 内容 |
|-----|------------|------------------------|--|
| 地階 | 倉庫 | 264.78㎡ | |
| 1階 | アリーナ | 1,320.00㎡ (40m×33m) | バレーボール2面, バスケットボール2面, バドミントン8面, ハンドボール1面, 卓球24台, レスリング2面, インドアテニス2面 |
| | ステージ | 192.00㎡ | |
| | その他 | 1,495.52㎡ | 事務室, 貴賓室, ミーティング室, 医務室, 器具庫(2), 選手控室(2), 電気室, 倉庫(2), 放送室, 操作室, 授乳室, 更衣室, 便所(3), 身障者便所(2), 売店, 切符売場 等 |
| 1階計 | | 3,007.52㎡ | |
| 2階 | 観覧席 その他 | 1,287.02㎡ | 観覧席1,280席, 身障者席 機械室(2), 器具庫(2), 便所(2), 身障者便所 |
| 中3階 | 倉庫 | 224.13㎡ | |
| 3階 | 観覧席 | 281.35㎡ | 観覧席459席, 機械室(2) |
| その他 | | 612.62㎡ | 機械室(別棟), エレベーター等, 器具庫 |

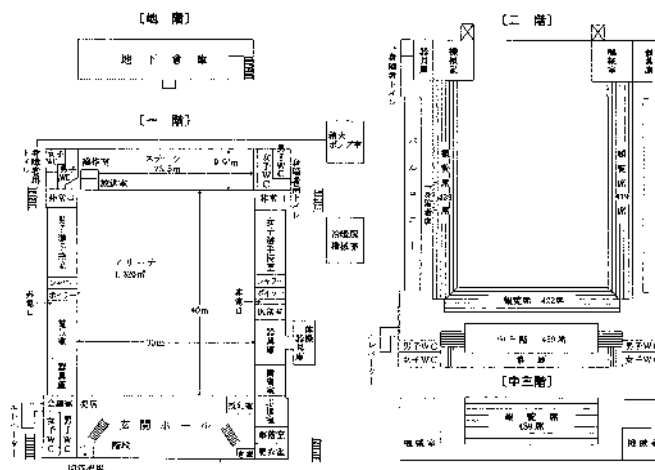
○研修室 340.00㎡

| 階 | 施設名 | 面積 | 内容 |
|----|-----|---------|--------|
| 1階 | 会議室 | 170.00㎡ | 会議室(2) |
| 2階 | 宿泊室 | 170.00㎡ | 宿泊室(2) |

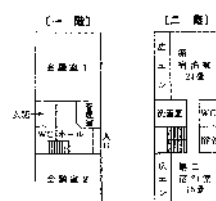
○補助体育館 486.72㎡

| 階 | 施設名 | 面積 | 内容 |
|----|-------|---------|----------------|
| 1階 | 競技場 | 344.22㎡ | 卓球5台, バドミントン1面 |
| | 体操ピット | 130.00㎡ | |
| | その他 | 12.50㎡ | 器具庫, 更衣室, 便所 |

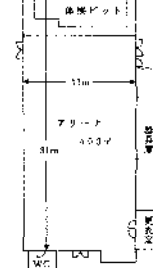
体育館平面図



研修室平面図



補助体育館平面図



鹿児島県総合体育センター体育館の利用状況

平成26年度から平成28年度までの鹿児島県総合体育センター体育館の利用状況をみると、年間約18万人が利用し、本館及び補助体育館の稼働率は90%程度となっている状況。

| 区 分 | | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
|------------|------|----------|----------|----------|
| 本 館 | 利用者数 | 130,164人 | 131,131人 | 123,213人 |
| | 稼働日数 | 314日 | 326日 | 324日 |
| | 稼働率 | 87% | 90% | 90% |
| 研 修 室 | 利用者数 | 3,861人 | 3,655人 | 3,279人 |
| | 稼働日数 | 111日 | 122日 | 97日 |
| | 稼働率 | 30% | 34% | 27% |
| 補助体育館 | 利用者数 | 46,161人 | 48,224人 | 48,463人 |
| | 稼働日数 | 325日 | 330日 | 331日 |
| | 稼働率 | 90% | 90% | 92% |
| 利用 者 数 合 計 | | 180,186人 | 183,906人 | 174,955人 |

鹿児島県総合体育センター体育館の課題

現在の鹿児島県総合体育センター体育館は、施設の老朽化が進んでいる現状にあるなど、次のような課題がある。

1 施設の老朽化

- ・ 現在、体育館は築56年を経過しており、老朽化が見られる。
- ・ 機能を維持するため、補修等が必要となっている。

※ 近年の主な補修

H26：体育館床張替補修等（3,963千円）

H27：体育館消火栓蓄電池取替（377千円）

体育館自動ドア補修（206千円）

H28：体育館発電機室屋根補修（482千円）

2 施設の機能

- ・ バレーボール、バスケットボール等のコート数が少ないことや、観客席の収容人数が少ないことなど、全国大会、国際大会等の大規模な大会を開催するには、狭隘となっている。
- ・ 体操競技において、競技場の規格（助走の長さ等）が大会規定に適合していないなどの状況がみられる。

3 管理・運営

- ・ 倉庫が狭く器具の出し入れがしづらいため、準備に時間がかかる。
- ・ トイレの入口が男女で共通になっており、気になるという声が出ている。

平成元年度以降の主な改修工事等の状況

| 年 月 | 改修工事等 |
|--------|-----------------------------|
| H4.5 | 空調設備設置 |
| H5.1 | 本館床張替 |
| H6.2 | 本館屋根及び地下倉庫防水工事 |
| H6.10 | ボイラー改修及び選手控室空調設備設置 |
| H7.3 | 自動ドア設置（1箇所） |
| H8.2 | 授乳室設置 |
| H9.3 | 身体障害者施設設置工事（エレベーター設置，その他工事） |
| H9.3 | 外壁改修工事 |
| H10.2 | 中庭（駐車場）改修 |
| H11.5 | 補助体育館体操専用練習設備整備 |
| H12.12 | 本館音響設備補修（アリーナメインスピーカー取替他） |
| H13.3 | 補助体育館屋根塗装補修 |
| H16.1 | 研修室補修 |
| H27.3 | 本館床張替 |
| H28.2 | 自動ドア補修 |
| H28.3 | 消火栓エンジンポンプ用蓄電池取替 |
| H29.3 | 体育館発電機室屋根補修 |

県体育館



本館アリーナ



研修室



会議室（研修室内）



補助体育館



補助体育館内競技場



既設の総合体育館の基本理念と機能(役割)等の事例

(基本構想等, 専門紙の情報, 聞き取りなどを行い当室で整理)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|--|----------------|--------------------------------|--|----------|------------------|--|--------------|----------------------|--|----------|------------------------------------|--|------|----------------|-------------------------------------|--|----------|------------------------------|--|--------------|--------------------------------------|--|----------|--|
| 施設名 (供用開始) 【所在地】 | 東京体育館 (H2. 4) 【東京都渋谷区】 | いしかわ総合スポーツセンター (H20.4) 【金沢市】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◇基本理念 | ◇東京都におけるスポーツ振興を図るための近代的かつ大規模な施設・設備を有する全都的総合体育施設 | ◇スポーツ振興の中核的拠点施設 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○機能(役割)等 | ○全都的総合体育施設としての特徴を生かした大規模大会の開催 ○多くの都民に継続的に運動に親しむ機会を提供 ○スポーツ・フォア・オールの実現(スポーツ振興に寄与する各種スポーツ事業の展開や健康体力相談, スポーツ関連情報の提供の場) | ○大会運営の効率化を図るための「全県的大会の集中開催」機能 ○県民誰もが気軽に利用できる「生涯スポーツ振興」機能 ○多くの県民に夢や感動を与える「国際大会開催」機能 ○スポーツ指導者の資質向上を図るための「指導者の養成・研修」機能 (○スポーツ以外の各種イベントでの活用にも対応) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 利用形態 (平成28年度) | <table border="1"> <tr> <td>スポーツ</td> <td>①:国際・全国大会規模の大会</td> <td>・リオ大会ハレーアジア大陸予選 ・全日本卓球選手権 他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②:スポーツ興行</td> <td>・V(ハレーホール)リーグ公式戦</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③:①, ②以外での利用</td> <td>・各種競技大会 他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④:スポーツ以外</td> <td>・小田和正, 吉川晃司, ライブ ・国立ポリシヨイサーカス 他</td> </tr> </table> | スポーツ | ①:国際・全国大会規模の大会 | ・リオ大会ハレーアジア大陸予選 ・全日本卓球選手権 他 | | ②:スポーツ興行 | ・V(ハレーホール)リーグ公式戦 | | ③:①, ②以外での利用 | ・各種競技大会 他 | | ④:スポーツ以外 | ・小田和正, 吉川晃司, ライブ ・国立ポリシヨイサーカス 他 | <table border="1"> <tr> <td>スポーツ</td> <td>①:国際・全国大会規模の大会</td> <td>・全日本ハンドリング選手権大会 ・全国中学校ハンドボール大会 他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②:スポーツ興行</td> <td>・V(ハレーホール)リーグ公式戦</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③:①, ②以外での利用</td> <td>・各種競技大会 ・各種競技練習 他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④:スポーツ以外</td> <td>・全国土地改良大会石川大会 ・金沢大学入学式 他</td> </tr> </table> | スポーツ | ①:国際・全国大会規模の大会 | ・全日本ハンドリング選手権大会 ・全国中学校ハンドボール大会 他 | | ②:スポーツ興行 | ・V(ハレーホール)リーグ公式戦 | | ③:①, ②以外での利用 | ・各種競技大会 ・各種競技練習 他 | | ④:スポーツ以外 | ・全国土地改良大会石川大会 ・金沢大学入学式 他 |
| スポーツ | ①:国際・全国大会規模の大会 | ・リオ大会ハレーアジア大陸予選 ・全日本卓球選手権 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ②:スポーツ興行 | ・V(ハレーホール)リーグ公式戦 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ③:①, ②以外での利用 | ・各種競技大会 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ④:スポーツ以外 | ・小田和正, 吉川晃司, ライブ ・国立ポリシヨイサーカス 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スポーツ | ①:国際・全国大会規模の大会 | ・全日本ハンドリング選手権大会 ・全国中学校ハンドボール大会 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ②:スポーツ興行 | ・V(ハレーホール)リーグ公式戦 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ③:①, ②以外での利用 | ・各種競技大会 ・各種競技練習 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ④:スポーツ以外 | ・全国土地改良大会石川大会 ・金沢大学入学式 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施設名 (供用開始) 【所在地】 | エコパアリーナ(静岡県小笠山総合運動公園内) (H13. 12) 【袋井市】 | 神戸ポートアイランドホール(ワールド記念ホール) (S59. 10) 【神戸市】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◇基本理念 | ◇子供から高齢者までの幅広い年齢層の県民が, 健康スポーツやレクリエーションを行える県民の生涯スポーツの拠点施設 ◇平成15年に開催された国民体育大会をはじめとする全国大会や国際大会が開催できる競技施設 | ◇体育, 文化及び産業の振興並びに福祉の増進を図る施設 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○機能(役割)等 | ○幅広い年齢層の健康, スポーツ, レクリエーション活動の需要に対応し, かつ, 広域的な利用が図られる場 ○県民の増大するスポーツ需要に対応し, スポーツ振興の拠点となる場 ○全国大会及び国際大会を含めた, 多様なスポーツ交流の場 ○多彩な音楽・文化イベントなど多目的に対応できる場 | ○全国級, 国際級の大規模集客型のスポーツイベントや集会, 国際見本市, コンサートなどあらゆるイベントに対応し様々なエンターテインメントを楽しめる拠点となる場 ○神戸市内はもとより, 市外からも多くの人々を集客することにより神戸経済の発展に寄与 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 利用形態 (平成28年度) | <table border="1"> <tr> <td>スポーツ</td> <td>①:国際・全国大会規模の大会</td> <td>・JOCジュニアオリンピックカップ全国エアロビクス選手権</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②:スポーツ興行</td> <td>・F(フットサル)リーグ公式戦</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③:①, ②以外での利用</td> <td>・各種競技大会 ・各種競技練習 他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④:スポーツ以外</td> <td>・嵐, DREAMS COME TRUE, 浜崎あゆみ, ライブ 他</td> </tr> </table> | スポーツ | ①:国際・全国大会規模の大会 | ・JOCジュニアオリンピックカップ全国エアロビクス選手権 | | ②:スポーツ興行 | ・F(フットサル)リーグ公式戦 | | ③:①, ②以外での利用 | ・各種競技大会 ・各種競技練習 他 | | ④:スポーツ以外 | ・嵐, DREAMS COME TRUE, 浜崎あゆみ, ライブ 他 | <table border="1"> <tr> <td>スポーツ</td> <td>①:国際・全国大会規模の大会</td> <td>・全日本フォークダンス大会</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②:スポーツ興行</td> <td>・Fantasy on ice 2016 in KOBE</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③:①, ②以外での利用</td> <td>・大学フットサルリーグ交流大会 ・U-13ミニサッカー交流大会 他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④:スポーツ以外</td> <td>・SEKAI NO OWARI ライブ ・神戸コレクション2017 他</td> </tr> </table> | スポーツ | ①:国際・全国大会規模の大会 | ・全日本フォークダンス大会 | | ②:スポーツ興行 | ・Fantasy on ice 2016 in KOBE | | ③:①, ②以外での利用 | ・大学フットサルリーグ交流大会 ・U-13ミニサッカー交流大会 他 | | ④:スポーツ以外 | ・SEKAI NO OWARI ライブ ・神戸コレクション2017 他 |
| スポーツ | ①:国際・全国大会規模の大会 | ・JOCジュニアオリンピックカップ全国エアロビクス選手権 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ②:スポーツ興行 | ・F(フットサル)リーグ公式戦 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ③:①, ②以外での利用 | ・各種競技大会 ・各種競技練習 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ④:スポーツ以外 | ・嵐, DREAMS COME TRUE, 浜崎あゆみ, ライブ 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スポーツ | ①:国際・全国大会規模の大会 | ・全日本フォークダンス大会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ②:スポーツ興行 | ・Fantasy on ice 2016 in KOBE | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ③:①, ②以外での利用 | ・大学フットサルリーグ交流大会 ・U-13ミニサッカー交流大会 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ④:スポーツ以外 | ・SEKAI NO OWARI ライブ ・神戸コレクション2017 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

今後整備予定の総合体育館の基本理念と機能(役割)等の事例

(基本構想等, 専門紙の情報, 聞き取りなどを行い当室で整理)

| 施設名 (供用開始) 【所在地】 | 佐賀県立アリーナ(仮称) (H34年度: 予定) 【佐賀市】 | 滋賀県立新体育館 (H34年度: 予定) 【大津市】 |
|------------------------|---|---|
| ◇基本理念 | <ul style="list-style-type: none"> ◇県民が、スポーツを「する」楽しみ、「観る」楽しみ、「支える」楽しみなど、それぞれのスタイルでスポーツを楽しむことができる施設 ◇本県ゆかりのアスリートが様々な競技で活躍を続けられるような「育てる」機能や、スポーツをしない人たちも楽しめるような「憩い・賑わい」空間を持つ施設 | <ul style="list-style-type: none"> ◇すべての県民がスポーツに参画し健康づくりに取り組むとともに、さまざまな交流や連携を通じて、元気で豊かな生活と滋賀を創造する地域の拠点施設 |
| ○機能(役割)等 | <ul style="list-style-type: none"> ○年齢・性別・障害のあるなしに関係なくスポーツを楽しむことができる場 ○全国規模の大会、プロスポーツのような「観る」スポーツに対応 ○トップアスリートの合宿などに対応 ○競技力の向上を支援(アスリートの練習環境、指導者の育成など) ○コンサートなど、スポーツ以外での利用が可能 | <ul style="list-style-type: none"> ○競技スポーツだけでなく生涯スポーツや健康づくりの拠点 ○多機能、多目的な利用への対応 ○大学をはじめとする周辺施設・機関と連携した全県への機能発揮 ○すべての人に利用しやすく、交流できる場 |
| 施設名 (供用開始) 【所在地】 | 有明アリーナ (H31年度: 予定) 【東京都江東区】 | 大分県屋内スポーツ施設 (H31年度: 予定) 【大分市】 |
| ◇基本理念 | <ul style="list-style-type: none"> 【東京オリンピック、パラリンピック後利用の方向性】 ◇国際大会を含むスポーツ大会や各種イベントなどに利用できる新たなスポーツ・文化の拠点となる施設 〈東京オリンピック・パラリンピック会場として整備〉 ・オリンピック: バレーボール(インドア) ・パラリンピック: 車いすバスケットボール(決勝) | <ul style="list-style-type: none"> ◇大規模大会も開催可能な屋内スポーツ拠点施設 ◇県民誰もが気軽に利用できる施設 ◇トップリーグ公式戦や各国代表の合宿開催によるスポーツ観光の拠点施設 ◇大規模災害に備えた広域防災拠点の中核施設 |
| ○機能(役割)等 | <ul style="list-style-type: none"> ○国内外の主要な競技大会の会場として、質の高いスポーツ観戦機会等を提供するとともに、首都東京の魅力を生み出すスポーツの場 ○コンサート等の文化イベントの開催など、都民に夢と感動を与える機会を創出 ○魅力的なスポーツ実践の場として、サブアリーナや諸室等を活用し、都民が日常的にスポーツに親しめる環境を提供 | <ul style="list-style-type: none"> ○県民の生きがい、健康づくりを支援 ○スポーツツーリズム(スポーツを観に行くための旅行及びそれに伴う周辺観光や、スポーツを支える人々との交流など。)に活用 ○県民の命を守る防災拠点 |

| | 委員の意見など | 意見の整理 |
|--------------------|---|--|
| 第1回 (H29・6・12) | <p>【主な議事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現県体育館の現状と課題(事務局説明) ○ 今後の検討項目について <p>【委員の主な意見】</p> <p>○ 県のスポーツ振興にとって、老朽化への対応は緊急の課題</p> <p>○ 総合体育館の議論は喫緊の課題</p> <p>○ 県民のスポーツ振興に寄与するような施設が必要</p> <p>○ 鹿児島が日本をリードするような目玉となるような施設を検討すべき</p> <p>○ スポーツを「する」「みる」ことにより、県民が感動したり、活力をもらえるような施設をできるだけ早期に整備してほしい。 など</p> | <p>◎ 総合体育館について、優先的に議論</p> <p>◎ 新しい総合体育館の必要性、機能について検討</p> <p>→ H30年2月頃までに提言をとりまとめ</p> <p>新しい総合体育館の整備は必要</p> <p>どのような役割・機能を持った施設が必要とされるか(基本的理念)</p> <p>視点・キーワードの整理</p> |
| 第2回 (H29・9・7) | <p>【主な議事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現県体育館の利用の特徴等について(事務局説明) ○ 新しい総合体育館の必要性について <p>【委員の主な意見】</p> <p>【新しい総合体育館の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい体育館の必要性には争いはないのでは。 ○ 老朽化等を踏まえ、現体育館に替わる施設を作る必要がある。 ○ 本県のスポーツの拠点として必要 ○ 観光の観点からも必要性は当然ある。 <p>【機能】 キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幅広い年代、全県的に県民が利用できる施設 ○ する、みる、ささえる、派生するビジネスを考えると多くの人が集まる施設 ○ 国際・全国大会に対応した施設(充実した観客席、放送など付随する施設) ○ プロスポーツが見れて、コンサート、イベントができる施設 ○ コンベンション機能等多目的利用の空間 ○ スポーツ文化の醸成・発信拠点 ○ スポーツ人材(マーケティング等)育成 ○ 障がい者、高齢者に対応したバリアフリー、障がい者スポーツへの対応 ○ 鹿児島の地理的特性を生かしたアジアも見据えた人々の賑わいの核となる施設 ○ 教育機関(大学)と連携 ○ 経済効果をしっかり得られる施設 ○ 交流人口の増に資する施設 ○ 既存の県内施設との役割分担 ○ メンテナンスコストを考慮した機能 など | <p>1 本県スポーツ振興の拠点としての機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スポーツを「する」視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢・障がいの有無等に関係なく県民がスポーツに親しむ。 ・ 多様なスポーツ競技の開催が可能 ・ 全県的大会の集中開催など大会運営の効率化 ◆ スポーツを「みる」視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際レベル、全国レベルの競技大会の開催に対応 ・ プロスポーツの開催に対応 ◆ スポーツを「ささえる」視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ文化の発信拠点 ・ スポーツ人材の育成(教育機関等との連携) <p>2 スポーツにとどまらない多目的利用による交流拠点としての機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「多目的利用」の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンサート、各種イベント等の開催に対応 ・ コンベンション機能 ・ 集客(多くの人が集まる)機能 <p>3 その他の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 経済効果からの視点 施設利用自体の経済性、利用から発生するビジネス、メンテナンスコストなどに配慮 ◆ 県内の屋内スポーツ施設との役割分担 ◆ バリアフリー、ユニバーサルデザイン など <p>* それぞれのキーワードから考えると <u>コンセプトは「アリーナ」ではないか</u></p> |
| 第3回 (H29・11・21) | <p>【主な議事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合体育館の機能について <p>【委員の主な意見】</p> <p>【機能】 キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツをみる楽しみ、参加する楽しみの場 ○ 収益性や稼働率を考えると多目的機能を備えた施設 ○ スポーツ文化の発信拠点としての機能 ○ 基本理念(運営方針)を検討することが大切 ○ 障がい者への十分な配慮 ○ 楽しく魅力的な空間であることが大切 ○ 鹿児島の財政や人口を考えるとコンパクトで機能的な施設 ○ コストセンターよりもプロフィットセンターとしての施設ではないか。 ○ 鹿児島にしかないオリジナリティを持った施設 ○ 県内施設等との役割分担・連携を図ることが大切 など | <p>◎ 第4回で提言をとりまとめ</p> |

東京体育館

全都的総合体育館としての特徴を活かした大規模大会を開催する施設の貸出及び多くの都民に継続的に運動に親しむ機会を提供する個人利用施設の公開、スポーツ関連情報の提供を実施し、スポーツ・フォア・オールの実現に資する施設

施設の概要

- 設置者:東京都
- 所在地:東京都渋谷区千駄ヶ谷
- 供用開始(全面改装):平成2年4月
- 施設構成:メインアリーナ棟
(バスケ4面, 観客席合計10,030席),
サブアリーナ棟, 屋内プール棟
- 運営:(公財)東京都スポーツ文化事業団

利用状況

メインアリーナ(平成28年度)

| 1日の最大コマ数 | 利用可能コマ数 | 利用コマ数 | 稼働率 | 利用者数 |
|------------------|---------|-------|-------|----------|
| 3 (4時間単位 1コマ) | 1,031 | 1,028 | 99.7% | 845,440人 |

サブアリーナ(平成28年度)

| 1日の最大コマ数 | 利用可能コマ数 | 利用コマ数 | 稼働率 | 利用者数 |
|---------------------|---------|-------|-------|----------|
| 6 (4時間単位 1コマ×2面) | 2,050 | 2,032 | 99.1% | 122,109人 |

外観



メインアリーナ 利用形態

| 平成28年度 | スポーツ | 利用形態 |
|----------------------|------|---|
| ① 国際大会・全国大会規模での利用 | | リオデジャネイロオリンピックバレーボール最終予選兼アジア大陸予選大会(男女), 全日本空手選手権, 春の高校バレー 他 |
| ② スポーツ興行(※入場料を徴収し開催) | | Vプレミアリーグ開幕戦・ファイナル 他 |
| ③ その他 | | 都民体育大会, 学校運動会 他 |
| ④ スポーツ以外 | | 小田和正, 吉川晃司, 国立ポリシヨイサーカス, マーチングバンドジャパンカップ, 就職面接会 他 |

機能・役割

- メイン** 国際級のスポーツイベントの会場として機能を十二分に発揮できるよう、コンピューターによる集中制御の音声システム, 全館空調システム, 大型電光表示装置, 大型映像装置などの設備を備えている。フロアは木製。観客席は固定席, 車椅子席, 仮設席の合計で10,030席。
- サブ** 各種のスポーツ競技の練習や主催事業に利用されているほか, 大規模なスポーツイベントには大会を支える補助機能施設としても利用。
- その他** 大規模なスポーツイベントやコンサートを円滑に運営するため, 特別室, 記者室, 役員室等を備え, また, 大・中・小の会議室やトレーニングルームなどの付帯施設も設置。

有明アリーナ

東京の新たなスポーツ・文化の拠点(東京2020大会後のレガシー)

- ◇ 国際大会など質の高いスポーツ観戦機会の提供によるスポーツムーブメントの創出
- ◇ コンサート等のイベント開催による東京の新たな文化発信拠点

施設の概要

- 設置者:東京都
- 所在地:東京都江東区有明
- 竣工日:平成31年12月(予定)
- 施設構成:メインアリーナ
(バレーボールがコート4面で競技可能な規模,
観客席15,000席(仮設席を含む)),
サブアリーナ, 交流広場 等

外観イメージ図



メインアリーナイメージ図



東京大会での 実施競技

- ★オリンピック
バレーボール
- ★パラリンピック
車いすバスケットボール

東京大会後の 利用の視点

- ① アスリートファースト**
 - ・ アスリートの活躍の場となる, 国内外の大規模大会の会場
目標:年間10大会開催【国際大会, プロリーグ, 全日本選手権等】
- ② 都民ファースト**
 - ・ コンサートや文化イベントなど, 魅力的なエンターテインメントを提供
 - ・ 身近なスポーツ実践の場として, 都民がスポーツに親しめる場を提供

機能・役割

- メイン** コンサートやその他各種イベント・ショーに対応可能なコンクリート床を設置し, 観客席は1万5千席(仮設席を含む)。また, 一定期間, 仮設の木製床を設置し, 大規模スポーツ大会開催や各種競技大会のスポーツ利用を促進。
- サブ** 都民のスポーツ実践の場としても活用し, スポーツを普及。
- その他** 隣接する有明親水海浜公園と連携して, 都民の健康づくりやにぎわい創出の空間を提供。
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が定める『Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン』の基準を満たし, 障がいの有無に関わらず, すべての人々にとって利用しやすい施設の実現。

エコパアリーナ

- 子供から高齢者までの幅広い年齢層の県民が健康スポーツやレクリエーションを行える県民の生涯スポーツの拠点施設
- 平成15年に開催された国民体育大会をはじめとする全国大会や国際大会が開催できる競技施設

施設の概要

- 設置者:静岡県
- 所在地:静岡県袋井市愛野
- 供用開始:平成13年12月
- 施設構成:メインアリーナ
(バスケ4面, 観客席6,344席),
サブアリーナ
- 運営:静岡県サッカー協会グループ エコパハウス

利用状況

【メインアリーナ】

| | H28年度 | H27年度 |
|------|----------|-----------|
| 利用者数 | 99,583 人 | 106,383 人 |
| 稼働日数 | 286 日 | 294 日 |
| 稼働率 | 82 % | 85 % |

メインアリーナ
利用形態

平成28年度

スポーツ

| | |
|----------------------|------------------------------|
| ① 国際大会・全国大会規模での利用 | JOCジュニアオリンピックカップ全国エアロビック選手権 |
| ② スポーツ興行(※入場料を徴収し開催) | F(フットサル)リーグ公式戦 |
| ③ その他 | 各種競技大会, 各種競技練習 他 |
| ④ スポーツ以外 | 嵐, DREAMS COME TRUE, 浜崎あゆみ 他 |

外 観



機能・役割

- 幅広い年齢層の健康, スポーツ, レクリエーション活動の需要に対応し, かつ, 広域的な利用が図られる場
- 県民の増大するスポーツ需要に対応し, スポーツ振興の拠点となる場
- 全国大会及び国際大会を含めた, 多様なスポーツ交流の場
- 多彩な音楽・文化イベントなど多目的に対応できる場

いしかわ総合スポーツセンター

- スポーツ振興の中核的拠点施設

施設の概要

- 設置者:石川県
- 所在地:石川県金沢市稚日野町北
- 供用開始:平成20年4月
- 施設構成:メインアリーナ
(バスケ4面, 観客席5,019席),
サブアリーナ, 屋内プール,
トレーニングルーム
- 運営:石川県体育協会グループ

利用状況

【メインアリーナ】

| | H28年度 | H27年度 |
|------|-----------|-----------|
| 利用者数 | 486,168 人 | 486,221 人 |
| 稼働日数 | 359 日 | 360 日 |
| 稼働率 | 100 % | 100 % |

メインアリーナ
利用形態

平成28年度

スポーツ

| | |
|----------------------|---------------------------------|
| ① 国際大会・全国大会規模での利用 | 全日本バトントワリング選手権大会, 全国中学校ハンドボール大会 |
| ② スポーツ興行(※入場料を徴収し開催) | Vリーグ(バレーボール)公式戦 |
| ③ その他 | 各種競技大会, 各種競技練習 他 |
| ④ スポーツ以外 | 全国土地改良大会石川大会, 金沢大学入学式 他 |

外 観



機能・役割


- 大会運営の効率化を図るための「全県的大会の集中開催」機能
- 県民誰もが気軽に利用できる「生涯スポーツ振興」機能
- 多くの県民に夢や感動を与える「国際大会開催」機能
- スポーツ指導者の資質向上を図るための「指導者の養成・研修」機能
- スポーツ以外の各種イベントでの活用にも対応

青い森アリーナ(マエダアリーナ)

各種スポーツの国際大会、全国大会が開催可能な第1級のスポーツ施設の整備と、「スポーツ科学センター」を核として県民の健康増進やレクリエーション活動が日常的にできる施設の整備を通じて県民の豊かで潤いのあるスポーツライフの拠点(運動公園全体コンセプト)

| 施設の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○設置者: 青森県 ○所在地: 青森市大字宮田字高瀬 ○供用開始: 平成15年1月 ○施設構成: メインアリーナ(バスケット3面, 観客席5,348席), サブアリーナ, スポーツ科学センター, 合宿所 等 ○運営: スポルト青い森グループ | 利用状況 | 【メインアリーナ】 | | | | | | |
|--------------|--|-------------|---|-------|--|------|-----------|------|-------|
| | | | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: right;">H28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">利用者数</td> <td style="text-align: right;">294,275 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">稼働日数</td> <td style="text-align: right;">350 日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">稼働率</td> <td style="text-align: right;">100 %</td> </tr> </tbody> </table> | H28年度 | | 利用者数 | 294,275 人 | 稼働日数 | 350 日 |
| H28年度 | | | | | | | | | |
| 利用者数 | 294,275 人 | | | | | | | | |
| 稼働日数 | 350 日 | | | | | | | | |
| 稼働率 | 100 % | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------------|--------|------|----------------------|---------------|------------|
| メインアリーナ 利用形態 | 平成28年度 | スポーツ | ① 国際大会・全国大会規模での利用 | - | 外 観 |
| | | | ② スポーツ興行(※入場料を徴収し開催) | Bリーグ公式戦, プロレス | |
| | | | ③ その他 | 各種競技大会 等 | |
| | | | ④ スポーツ以外 | 記念式典講演会 | |



| | |
|--------------|--|
| 機能・役割 | <ul style="list-style-type: none"> ○見ることによる新たなスポーツ感動との出会い ○することによる競技力の向上 ○楽しむことによるリフレッシュの発見 ○知ることによる新たなスポーツ体験との出会い ○豊かな自然環境の中でのレクリエーション空間の創出 ○アメニティあふれる人にやさしい公共空間の整備 |
|--------------|--|

アオーレ長岡

○市民と行政, 市民と市民, 行政と経済界をつなぐ協働・交流の拠点
○「アリーナ」, 「ナカドマ」, 「市役所」が一体となった複合施設。市民活動の「ハレ」の場として, 皆が憩い集う『市民交流の拠点』

| | | | |
|--------------|---|--------------|--|
| 施設の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○設置者: 長岡市 ○所在地: 新潟県長岡市大手通 ○供用開始: 平成24年4月 ○施設構成: アリーナ(バスケット3面, 観客席3,566席), 市民交流ホール, シアター, ナカドマ(屋根付き広場), 市役所, 議場 等 ○運営: 市民交流ネットワーク「アオーレ」及び長岡市 | 施設の様子 |   |
|--------------|---|--------------|--|

| | | | | |
|-------------------------|---------|------|-------------------|---|
| メインアリーナ 利用形態 | これまでの実績 | スポーツ | ① 国際大会・全国大会規模での利用 | 女子バスケット日本代表強化試合(VSオーストラリア) |
| | | | ② スポーツ興行 | プロレス, ドリームオンアイス, Bリーグ公式戦, Vプレミアリーグ |
| | | | ③ その他 | 各種競技大会, その他市民向けスポーツイベント 他 |
| | | | ④ スポーツ以外 | ポリシヨイサーカス, 24時間テレビ, 音楽祭(沢田知加子, 稲垣潤一, 岡本真夜ほか), ライトーク(かりゆし58 & 前園真聖), 大学入試説明会 他 |

| | |
|--------------|---|
| 機能・役割 | コンサートから各種スポーツ, 大規模な展示会や講演会まで, 幅広い用途に応えることが可能。最大5,000人収容し, 多用途に対応したエンターテインメントスペース。 |
|--------------|---|

ゼビオアリーナ仙台

○スポーツの持つ夢や魅力を最大限に伝える場として、また震災復興のシンボルとして、スポーツ施設としての枠組みを超えた感動共有スペース
 ○スポーツイベントはもちろん、音楽イベントやコンベンション、地域イベントなど多彩な活用が可能な総合エンターテインメントアリーナ

施設の概要

- 設 置:ゼビオ社
- 所 在 地:宮城県仙台市太白区あすと長町
- 開 館:平成24年10月
- 施設構成:多目的アリーナ(観客席4,009席),テナント 等
屋内型スポーツパーク(テニス・バスケット・フットサル)
- 管理運営:ゼビオアリーナ有限責任事業組合

施設の様子



メインアリーナ
利用形態

| | | | |
|-----------|------------------|-------------------|---|
| これまでの興業実績 | ス ポ ー ツ | ① 国際大会・全国大会規模での利用 | FIBA WORLD TOUR FINAL, バスケットボール女子日本代表国際親善試合2014, 日韓V.LEAGUE TOP MATCH |
| | | ② スポーツ興行 | 仙台89ers(bjリーグ), 仙台ベルフィーユ(Vチャレンジリーグ), ヴォスクオーレ仙台(Fリーグ), bjリーグ ALL STAR GAME |
| | | ③ その他 | 楽天野球団シーズンシートオーナー感謝祭, 羽生結弦凱旋公演, FIFAサッカーブラジルワールドカップ パブリックビューイング ほか |
| | | ④ スポーツ以外 | 長瀬剛, 松田聖子, GACKT, 浜崎あゆみ ほか |

ゼビオアリーナ仙台公表資料から作成

機能・役割

- 最大約6,000人を収容可能
- スポーツイベントや音楽イベント, コンベンション, 地域イベントなど多彩な活用が可能
- バスケットボールを利用形態のメインとして整備
- アリーナ中央天井に4面ビジョン, 観客席に場内を1周するリボンビジョン, 高品質の音響施設が整備され, 映像と音で会場を一体化する, 新たな演出が可能
- 床面はコンクリートであり, スポーツイベント時は木製フロアを配置

ドーム球場について

1 公設のドーム球場(公益財団法人 日本体育施設協会 施設一覧等から)

- (1) 施設(所有者)
 ①札幌ドーム(札幌市), ②札幌コミュニティドーム(札幌市),
 ③シェルコムせんだい(仙台市), ④大館樹海ドーム(秋田県),
 ⑤こまつドーム(小松市), ⑥滋賀県立長浜ドーム(滋賀県),
 ⑦但馬ドーム(兵庫県), ⑧岡山ドーム(岡山市),
 ⑨出雲ドーム(出雲市)
- (2) 管理・運営
 全ての施設: 指定管理者
- (3) 利用形態
 札幌ドーム(①): プロ野球・Jリーグ公式戦, コンサート, イベント等
 その他の施設(②~⑨): 軟式野球, サッカー, テニス, イベント等

2 プロ野球公式戦が開催されるドーム球場

- (1) 施設(所有者)
 ①札幌ドーム(札幌市), ②西武ドーム(西武鉄道株),
 ③東京ドーム(株東京ドーム), ④ナゴヤドーム(株ナゴヤドーム),
 ⑤大阪ドーム(オリックスグループ),
 ⑥福岡ドーム(福岡ソフトバンクホークス株)
- (2) 管理・運営
 全ての施設: 民間(札幌ドームは指定管理)

- ※ プロ野球一軍公式戦開催実績(平成28年度)
- 地方開催は37試合, このうち観客席数が最も少ない野球場は, 1万5千席(呉市二河野球場)
 - 上記1の公設ドーム(札幌ドーム除く)での開催実績なし

鹿児島県立鴨池野球場の概要

第27回国民体育大会(昭和47年太陽国体)のための施設(陸上競技場, 野球場, 庭球場, 補助競技場)を建設することとし, 昭和45年12月に野球場が完成。

1 施設概要

| | |
|---------|---|
| 所在地 | 鹿児島市与次郎二丁目2番2号 |
| 建設費 | 260,000千円 |
| 面積 | 24,059㎡ |
| グラウンド面積 | 12,964.6㎡(両翼98m, 中堅122m) |
| 建物面積 | 18,713.12㎡ |
| 収容人員 | 21,000人(内野15,500人, 外野5,500人) |
| 構造 | 鉄筋コンクリート2階建て |
| 施設構成 | 1階:事務室, 管理人室, 記者室, 放送室, 記録室, 役員室(2室), 審判員室, 警備員室, 予備室等 2階:貴賓室, 報道ブース 《その他》:屋外ピッチング場(685.12㎡), 夜間照明(鉄塔6基) |
| 主な沿革 | 昭和53年6月:夜間照明施設完成 昭和54年6月:スタンド拡張工事 平成6年2月:電光スコアボード完成 平成9年1月:スタンド改修 平成9年12月:内外野改修 平成26年3月:記者室棟, ロッカールーム棟増築 平成28年4月:スタンド改修(防水, 外壁) |

2 利用状況

| 平成27年度 | | | 平成28年度 | | |
|--------|------|---------|--------|------|---------|
| 利用日数 | 利用件数 | 利用人数(人) | 利用日数 | 利用件数 | 利用人数(人) |
| 193 | 249 | 177,445 | 200 | 264 | 171,515 |

3 現在の整備状況

2020年「燃ゆる感動かごしま国体」に向けて, グラウンドの工事を実施中。今後, スコアボード等を改修予定。

ドーム球場について

1 公施設

| 番号 | 名称 (所在地) | 供用開始 | 所有/運営 | 利用形態 | 建設費 |
|----|------------------------|-------|----------------------------|--|--------|
| | | | | フランチャイズ | 収容人数 |
| 1 | 札幌ドーム (北海道札幌市) | 平成13年 | 札幌市/ (株)札幌ドーム | プロ野球公式戦 Jリーグ公式戦 コンサート イベント コンベンション 等 | 約422億円 |
| | 日本ハムファイターズ コンサドーレ札幌 | | | プロ野球時 約42,000人 イベント時 約54,000人 | |
| 2 | 大館樹海ドーム (秋田県大館市) | 平成9年 | 秋田県/ 大館市文教振興財団 | 硬式・軟式野球 サッカー、テニス コンサート イベント 等 | 約82億円 |
| | なし | | | 観客席 5,040人 イベント時 15,000人 | |
| 3 | 全但バス但馬ドーム (兵庫県豊岡市) | 平成10年 | 兵庫県/県勤労福祉協会・ 全但バス株式会社 他 | 軟式野球 サッカー、テニス コンサート イベント 等 | 約60億円 |
| | なし | | | 可動式席 1,196席 イベント時 9,700人 | |

2 民施設

| | | | | | |
|---|------------------------|-------|-------------------------------|--|--------------------|
| 1 | 東京ドーム (東京都文京区) | 平成63年 | (株)東京ドーム/ (株)東京ドーム | プロ野球公式戦 コンサート イベント コンベンション 等 | 約350億円 |
| | 読売ジャイアンツ | | | プロ野球時 約46,000人 イベント時 約55,000人 | |
| 2 | 福岡ヤフオク!ドーム (福岡県福岡市) | 平成5年 | 福岡ソフトバンクホークス/ 福岡ソフトバンクホークス | プロ野球公式戦 コンサート イベント コンベンション 等 | 約760億円 (土地代を含む) |
| | 福岡ソフトバンクホークス | | | プロ野球時 約38,500人 | |

【具体例：札幌ドーム(平成28年度実績)】

- ①売上高: 41億43百万円, 経常利益: 2億87百万円
- ②イベント開催日数: 134日, イベント来場者数: 299万人
- ③主なイベント: 日本ハムファイターズ戦, コンサドーレ札幌戦, 冬季アジア札幌大会, コンサート 等